別記様式第8号（別記1の第6の1、別記2の第5、別記3の第6関係）

鳥獣被害防止総合支援事業、鳥獣被害防止都道府県活動支援事業及び鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業の評価報告（令和4年度報告）

静岡県（都府道）

1　被害防止計画の作成数、特徴等

本県では、35市町で被害防止計画が策定されている。各市町は、被害の軽減目標を達成するため、侵入防止柵の整備、被害防止目的の捕獲、緩衝地帯の整備、被害防止研修会等を実施している。

2　事業効果の発現状況

市町による地域住民を主体とした被害防止対策の取組と、それを県が支援したことにより、農作物被害額はピークであった平成21年度から減少傾向にある。

3　被害防止計画の目標達成状況

令和3年度を被害防止計画の目標年度として事業評価を行なった14事業主体のうち、被害金額又は被害面積で目標を達成したのは12事業主体であった。

4　各事業実施地区における被害防止計画の達成状況

事業実施主体名（協議会名）	対象地域	実施年度	対象鳥獣	事業内容	事業量	管理主体	供用開始	利用率・稼働率	事業効果	被害防止計画の目標と実績						事業実施主体の評価	第三者の意見	都道府県の評価
										被害金額			被害面積					
										目標値	実績値	達成率	目標値	実績値	達成率			
沼津市有害鳥獣被害防止対策協議会	沼津市	令和元年～令和3年度	イノシシ、ニホンジカ、サル、カラス、ハクビシン	推進事業	R1 サル用はこ罠2基の購入 被害防除研修参加	沼津市有害鳥獣被害防止対策協議会	R2.3..31	－	令和1年度に購入したサル用箱わな2基については、捕獲実績もあり、被害防除のための捕獲を推進することができた。 また、同じく令和1年度に行ったサル対策の防除研修においては、地域住民といかに協力して対策を行っていけるのかが重要であることを確認することができた。 令和2年度に購入したデジタル無線機20台については、有害鳥獣の捕獲作業を効率化することができ、被害防除のための捕獲を推進することができた。 令和3年度に購入したサル追い払いのためのアタックドローンについては、効率的な追い払いを実施することができた。	19,250	20,772	71.9%	830	906	68.5%	被害面積及び金額について、減少させることは出来ているので、現在の方法を継続していく。 しかし、目標達成が出来ていないため、今後は、捕獲だけに頼らず、防除を行っていけるような体制を目指していきたい。防除と捕獲を同時に実施することにより、目標達成は可能ではないかと考える。	被害金額・被害面積ともに目標の7割程度に減少させることができており、対策の効果が見られる。 今後はサルだけでなく、イノシシやニホンジカの対策についても取り組み、被害の軽減に努めてほしい。 （静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター上席研究員　水井陽介）	目標は達成できなかったものの、基準年度（平成29年度）から被害額及び被害面積は年々減少しているため、引続き被害の縮小に努めてほしい。
					R2 有害鳥獣の捕獲作業時に用いるデジタル無線機20台の購入	沼津市有害鳥獣被害防止対策協議会	R2.11.16	－										
					R3 サル追い払いのためのアタックドローン1台の購入	沼津市有害鳥獣被害防止対策協議会	R4.2.15	－										
					R1 イノシシ 成獣269頭 幼獣35頭 ニホンジカ 成獣128頭 幼獣1頭	－	－	－	捕獲により、被害面積及び金額を減少させることは出来た。しかし、目標達成には至っていないため、より捕獲を実施していく。									

				緊急捕獲活動支援事業	R2 イノシシ 成獣350頭 幼獣36頭 ニホンジカ 成獣95頭 幼獣2頭 サル 5頭 カラス 123羽	－	－	－										
					R3 イノシシ 成獣288頭 幼獣60頭 ニホンジカ 成獣88頭 幼獣1頭 サル 18頭 カラス 39羽	－	－	－										
あいら伊豆広域有害鳥獣被害対策協議会	熱海市	令和元年度～令和3年度	イノシシ サル ハクビシン ニホンジカ アナグマ カラス ヒヨドリ	推進事業	(R3) 箱わな(大)3基 購入	あいら伊豆広域有害鳥獣被害対策協議会	－	－	現場導入することによりイノシシの発生を抑制する効果が確認出来た。	629	1,344	△921.4	590	1,323	△1010.6	熱海市では、隣接する伊東市とともに、あいら伊豆広域有害鳥獣対策協議会を主体とし、広域で被害対策を実施している。 熱海市内の捕獲の現状は農地被害については農家が組織する熱海ワナの会がわなによる捕獲を実施。生活被害については熱海市鳥獣被害対策実施隊がわなによる捕獲を実施している。 捕獲力向上の為、捕獲器の拡充及び捕獲経費補助を実施し、捕獲強化に努めた。また、生活被害にあった場合はわな設置と同時に個人でも出来る防除の方法をわな免許保持者から伝え、被害軽減の対策を実施している。 令和元年の鳥獣の生息範囲の拡大と思われる影響に対してわな設置数を増やし捕獲を進めるが目標達成値まで被害を防げず被害防止計画目標は未達成となった。	鳥獣被害を軽減するためには、捕獲だけでなく電気柵等の侵入防止柵の設置や荒廃農地の解消等の生息環境対策を合わせて進めることが必要である。 また、鳥獣被害対策については地域住民が一体となって進めることでより大きな効果が得られる。 このため、鳥獣被害対策実施隊には生産者個人に対する指導だけでなく、集落全体として鳥獣被害対策に取り組む体制づくりを進めることを期待する。 (静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター上席研究員　水井陽介)	基準年度(平成29年度)の被害規模が小さかったため、それに基づく目標値には達することができなかった。 しかし、令和2年度、3年度と前年度から被害額を減少させることができており、令和2年度に実施隊を設置した効果が出てきていると考えられる。 引続き、実施隊、地区猟友会、わなの会、農協等と連携し、被害の縮小に努めてほしい。
				緊急捕獲活動支援事業	(R1)　捕獲数 イノシシ　68頭 ニホンジカ　2頭 アナグマ　1頭	－	－	－	従事者の対応により一定の捕獲があったが、被害金額、被害面積について前年度より減らすことができなかった。									
				緊急捕獲活動支援事業	(R2)　捕獲数 イノシシ　175頭 ニホンジカ　9頭 ハクビシン　2頭 アナグマ　3頭	－	－	－	従事者が増え、わなの設置数が増えたことにより捕獲数が顕著に増加した。その結果、被害額は前年度比33%減、被害面積は前年度比19%減となった。									

					（R3）　捕獲数 イノシシ　108頭 ニホンジカ 17頭 ハクビシン　4頭 アナグマ 4頭	－	－	－	ニホンジカの捕獲数は前年より更に増加し、被害金額は前年度比52%減となったが、被害面積は前年度比6.6%増となった。イノシシの捕獲数は豚熱の影響が出始めたのか減少傾向となった。								
				推進事業	（R1） 大型獣用箱わな購入 5基	伊豆市鳥獣被害防止対策協議会	R1.11.6	－	捕獲わなの購入、安全対策研修会の開催、食肉加工センターにおける国産ジビエ認証取得および商品管理システムの導入により、捕獲の推進とジビエ利活用の両面から複合的な対策を講じることにより、被害軽減に繋がった。	66,392	63,037	120.2%	12.9	9.6	197.1%	防護柵設置に対する市費による助成および国庫補助金を活用した集落単位での大規模防護柵設置の実施、捕獲従事者への報償金等支払いによる支援、捕獲個体のジビエ利用など、様々な取り組みを複合的に実施することにより被害金額・面積共に軽減目標を達成することができた。 ただし、依然として農業被害・森林被害が発生しているため、今後も継続して総合的な対策事業を実施していくとともに、正しい獣害対策方法の普及啓発等により農業者・地域住民の意識改革を図り、自衛による対策を支援・推進していくなど、市と住民の連携によりさらなる被害軽減に努めていきたい。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%以上であり、対策の効果が見られる。 捕獲や防護柵の設置と合わせて、被害が発生した地域の住民に対して意識啓発を行ってほしい。 また、大規模な防護柵を複数人で管理する場合、見回りがおろそかになることがあるため、引き続き適切な維持・管理を期待する。 （静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター上席研究員　水井陽介）	ソフト、ハードを組み合わた総合的な取組により、目標を達成できているため、今後も継続して被害の縮小に努めてほしい。
					くくりわな製作資材購入 600基分（ﾜｲﾔｰ、押ﾊﾞﾈ 等）		R2.3.10	－									
					くくりわな購入 75基		R2.3.12	－									
					国産ジビエ認証取得・ジビエ普及PR活動		R2.3.30	－									
					射撃研修会の実施		－	－									
					（R2） 捕獲、処理加工、在庫管理、出荷を一元的に管理するICTシステムの導入	伊豆市	R3.1.27	－									

伊豆市鳥獣被害防止対策協議会 伊豆市	伊豆市	令和元年～令和３年度	ホジニンカイノシシワイシカウ		ジビエ普及のためのPR活動費・鳥獣処理活用技術研修会参加	鳥獣被害防止対策協議会	－	－											
					射撃研修会の実施														
					（R3） 鳥獣埋設穴掘削用重機借上げ	伊豆市鳥獣被害防止対策協議会	－	－											
					射撃研修会の実施		－	－											
				整備事業	（R1） 侵入防止柵整備 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵 (H=2.0m) 整備地区 伊豆市湯ケ島 延長 940m 受益戸数 7戸 受益面積 1.7ha	伊豆市鳥獣被害防止対策協議会	R2.2.24	－	集落単位で広域的に防護柵を設置することにより、農地への加害獣の侵入を防ぐとともに、獣道を限定させる効果により効率的な捕獲が可能となり、大幅な被害軽減ができた。 また、受益者の営農意欲の継続により、獣のエサ場や隠れ場所となる耕作放棄地発生の未然防止にも繋がった。									
					（R2） 侵入防止柵整備 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵 (H=2.0m) 延長 1,080m 整備地区 伊豆市大平柿木 受益戸数 6戸 受益面積 2.5ha	伊豆市鳥獣被害防止対策協議会	R3.3.14	－											

					（R3） 侵入防止柵整備 ﾜｲﾔｰﾒｯｼｭ柵 （H=2.0m） 延長　1,150m 整備地区　伊豆市冷川 受益戸数　10戸 受益面積　1.9ha	伊豆市鳥獣被害防止対策協議会	R4.3.18	－										
				緊急捕獲活動支援事業	（R1） ニホンジカ　26頭 イノシシ　95頭	伊豆市	－	－	捕獲個体の利活用および捕獲従事者の意欲向上に寄与した。									
					（R2） ニホンジカ　84頭 イノシシ　119頭	伊豆市	－	－										
					（R3） ニホンジカ 295頭 イノシシ　50頭	伊豆市	－	－										
				推進事業	（R1）実施隊パトロール用機材購入 （センサーカメラ1台、電気柵テスター1基）	函南町有害鳥獣被害防止対策協議会	R2.2.27～		集落と山において、イノシシ、タヌキ、カラスによるスイカ等の野菜類の被害が多発し、ニホンジカによるトウモロコシや牧草等の飼料作物の被害も多かったことから、環境省の指定管理鳥獣捕獲等事業と連携しつつ、緊急捕獲活動支援事業を活用し山中において猟友会が有害捕獲を行うとともに、令和元年度に函南町鳥獣被害対策実施隊を設置し、捕獲活動の効率化を図った他、電気柵のパトロール、被害防除研修会の開催によって総合的な対策に取り組んだ。これらの取組により、町内におけるイノシシの有害捕獲頭数は令和元年度から令和2年度にかけて41%増加、シカの有害捕獲頭数は令和元年度から令和3年度にかけて43%増加（推進事業開始前の令和元年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで277頭、シカで37頭。事業開始後では年間の有害捕獲頭数はイノシシで393頭（令和2年度）、シカで53頭（令和3年度））。							被害面積、被害金額ともに、大幅に目標値を達成することができた。 なお、被害額の多くを占めるイノシシの捕獲を推進した結果、1年目2,947千円、2年目2,163千円、最終年度は1,624千円と徐々に被害が減少しているため、引き続き捕獲圧を高めるとともに、鳥獣被害対策実施隊のパトロールや研修会等の開催を通じて、総合的な対策に取り組む方針である。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%以上であり、対策の効果が見られる。 引き続き、捕獲や防護柵の設置と合わせて、被害が発生した地域の住民に対して意識啓発を行うことで、今後も被害の軽減に努めることを期待する。 （静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター上席研究員　水井陽介）	被害額は年々減少しており、目標を達成することができている。 実施隊の設置等、これまでの取組の効果が現れているため、今後も引続き被害の縮小に努めてほしい。
					（R2）被害防除研修会の開催 研修資材（電気柵1セット）購入	函南町有害鳥獣被害防止対策協議会	R2.8.26～											

函南町有害鳥獣被害防止対策協議会	函南町	令和元年～令和3年度	ノシシ ニホンジカ ハクビシン カラス アナグマ ヌタ	緊急捕獲活動支援事業	（R3）小型箱わな3基　購入	函南町有害鳥獣被害防止対策協議会	R4.3.29～			3,482	1,624	581.3%	82	50	500.0%				
					（R1） イノシシ成獣268頭 イノシシ幼獣9頭 ニホンジカ成獣37頭 ハクビシン13頭 カラス20羽 アナグマ6頭	－	－		町内におけるイノシシの有害捕獲捕獲頭数は令和元年度から令和2年度にかけて41%増加、シカの有害捕獲頭数は令和元年度から令和3年度にかけて43%増加（令和元年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで277頭、シカで37頭。年間の有害捕獲頭数はイノシシで393頭（令和2年度）、シカで53頭（令和3年度））。令和3年度は、全体の有害捕獲頭数が若干減少しているが、カラスやアナグマなどの鳥獣の捕獲数は増加傾向にあり、被害金額、被害面積ともに効果が表れている。									
					（R1）実施隊パトロール用機材購入 （センサーカメラ1台、電気柵テスター1基）	函南町有害鳥獣被害防止対策協議会	R2.2.27～												
					（R2）被害防除研修会の開催 研修資材（電気柵1セット）購入	函南町有害鳥獣被害防止対策協議会	R2.8.26～												
					（R3）小型箱わな3基　購入	函南町有害鳥獣被害防止対策協議会	R4.3.29～												
					（R1） イノシシ成獣268頭 イノシシ幼獣9頭 ニホンジカ成獣37頭 ハクビシン13頭 カラス20羽 アナグマ6頭	－	－		町内におけるイノシシの有害捕獲捕獲頭数は令和元年度から令和2年度にかけて41%増加、シカの有害捕獲頭数は令和元年度から令和3年度にかけて43%増加（令和元年度では年間の有害捕獲頭数はイノシシで277頭、シカで37頭。年間の有害捕獲頭数はイノシシで393頭（令和2年度）、シカで53頭（令和3年度））。令和3年度は、全体の有害捕獲頭数が若干減少しているが、カラスやアナグマなどの鳥獣の捕獲数は増加傾向にあり、被害金額、被害面積ともに効果が表れている。									

				緊急捕獲活動支援事業	（R2） イノシシ成獣370頭 イノシシ幼獣23頭 ニホンジカ成獣56頭 ハクビシン10頭 カラス65羽	－	－											
					（R3） イノシシ成獣218頭 イノシシ幼獣35頭 ニホンジカ成獣52頭 ニホンジカ幼獣1頭 ハクビシン13頭 カラス85羽 アナグマ28頭 タヌキ11頭	－	－											
清水町鳥獣被害防止対策協議会	清水町	令和元年度～令和3年度	イノシシ ニホンジカ ハクビシン	推進事業	（R2） 猟犬用発信機3基	清水町鳥獣被害防止対策協議会	－	－	猟犬用発信機を用いることで効率的な捕獲作業を行うことができた。	8	15	▲75%	3.4	8	▲187.5%	猟犬用発信機を用いて効率的な捕獲活動を行うことができている。 被害金額及び被害面積について共に目標値に達することができなかった。 清水町は例年被害額及び被害面積が小さいことから、目標値について非常に厳しく設定していたが、近年ニホンジカによる被害の増加等があり、実績値が微増した。 引き続き適切な被害防止対策を行う必要がある。	被害金額及び面積がともに少なく、局所的な発生にとどまっていると推察される。 今後については被害が増加している地域で捕獲を含む各種被害対策を進めてほしい。 （静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター上席研究員　水井陽介）	基準年度（平成29年度）から被害金額及び被害面積が微増したため、目標は達成できなかった。 被害規模自体が小さいことから実施隊を設置していないため、地区猟友会等と連携し、被害の縮小に努めてほしい。
				緊急捕獲活動支援事業	（R1） イノシシ7頭 ニホンジカ1頭 ハクビシン0頭	－	－	－	年間を通じ7、8頭の有害鳥獣の捕獲ができた。 近年、ニホンジカの捕獲頭数が増えてきている。									
					（R2） イノシシ7頭 ニホンジカ1頭 ハクビシン0頭	－	－	－										
					（R3） イノシシ5頭 ニホンジカ2頭 ハクビシン0頭	－	－	－										

富士宮市鳥獣被害防止対策協議会	富士宮市	令和元年から令和3年	ニホンジカ、イノシシ、サル、ハクビシン、アライグマ、カラス、カワウ	推進事業	(R1) ・埋設用重機借上げ　1回 ・くくり罠購入　22基 ・止め刺し器　1基 ・被害防止研修会　1回 ・ジビエ料理講習会　1回 (R2) ・埋設穴重機借上げ　1回 ・くくり罠購入　10基 ・止め刺し講習会　1回 ・ジビエ利活用講習会　1回 ・ジビエ認証取得　1施設 (R3) ・埋設穴重機借上げ　1回 ・くくり罠購入　15基	富士宮市鳥獣被害防止対策協議会	―	―	・被害相談のあった地域で猟友会長を講師とした被害防除の講習会を地域で実施するなどを行い、捕獲と防除の両面から取組を行った。これらの取組により、被害額、被害面積ともに100%を達成することができた。 ・本事業を活用し、国産ジビエ認証を1施設において取得し、ブランド力の向上に努めた。 ・講習会受講者のうち、1つの加工処理施設では、併設するキャンプ場の食堂においてニホンジカの料理の提供を令和3年から開始した。 ・ニホンジカの食肉施設処理頭数が令和元年度は798頭のうち5.8%に対し、令和3年度には617頭のうち14.1%まで増加した。	6,429	4,035	186.9	15,721	11,875	197.8	被害額、被害面積ともに目標を達成した。 事業の効果によるものと考える。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%以上であり、対策の効果が見られる。また、講習会を通じて、ジビエの利活用が推進されたことは貴重な成果の一つと考える。今後も被害対策とともに、捕獲を推進するためにもジビエの利活用の推進に取り組んでほしい。	捕獲機材、研修、ジビエ利用など、様々な事業を活用することで、被害防止計画が達成できた。今後も継続して対策実施をお願いしたい。
				緊急捕獲活動支援事業	(R1) ・シカ　798頭 ・イノシシ　209頭 ・サル　6頭 ・カラス　46頭 (R2) ・シカ　624頭 ・イノシシ　202頭 ・サル　10頭 ・カラス　8頭 (R3) ・シカ　617頭 ・イノシシ　107頭 ・サル　8頭 ・カラス　12頭	―	―	―	・富士山麓の森林地帯及び市北部の酪農地域において、牧草や植栽した苗木への被害があったが、緊急捕獲活動支援事業を活用し山中において猟友会が有害捕獲を行い、生息頭数の低減を図った。 ・捕獲頭数は、例えばニホンジカでは令和元年度798頭、令和2年度624頭、令和3年度617頭とほぼ横ばいであるが、静岡県調査による推定生息頭数は減少傾向にあり、捕獲の効果が出ている。									
島田市鳥獣被害防止対策協議会	島田市	令和元年度～令和3年度	イノシシ ニホンジカ サル	鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業 鳥獣被害防止総合対策推進事業	捕獲頭数(R1～R3) イノシシ （成獣）　719頭 （幼獣）　172頭 サル （成獣）　12頭 ニホンジカ （成獣）　124頭 R1 捕獲用獣サイズ判別センサー3基 センサーカメラ4台 参考書籍、DVD 研修会受講 R2 捕獲用獣サイズ判別センサー9基 箱わな(大)12基 センサーカメラ3台 参考書籍 R3 くくりわな17基 箱わな(大)3基 大型囲いわな1基 センサーカメラ5台				・R1～R3　イノシシ(成獣・幼獣計)891頭、サル(成獣)12頭、ニホンジカ(成獣・幼獣計)　124頭　鳥獣合計　1,027頭 ・H28～H30　イノシシ(成獣・幼獣計)1,388頭、サル(成獣)7頭、ニホンジカ(成獣・幼獣計)　59頭　鳥獣合計　1,454頭 捕獲頭数については、H28～H30捕獲実績と比較すると減少しているが、これは豚熱によるイノシシの捕獲頭数の減少が大きな要因として考えられ、ニホンジカ及びサルについては捕獲頭数は増加している。とりわけニホンジカにおいては、静岡県による管理捕獲を平行して実施しているにも関わらず捕獲頭数が増加していることから、今後もニホンジカの個体数は増加していくことが推察される。 捕獲対象の変化に対応するため、くくりわなの購入やセンサーカメラによる加害個体の特定を行ったことが、ニホンジカの捕獲頭数の増加につながった。 獣サイズ判別センサー等ICT機器の導入により加害個体の効率的な捕獲が実施できた。 研修会や参考書籍等から得た知識を基に、地域住民への獣害対策勉強会を開催したことにより、地域住民の防除に対する意識を改善することができた。	14,223千円	5,839千円	630%	356a	152a	610%	目標値については達成することができた。要因としては、豚熱によるイノシシの個体数の減少が大きく影響していると推察される。 また、くくりわなの購入やICT機器の導入により、ニホンジカの捕獲頭数が増加したことも被害抑制の要因として挙げられる。 地域住民との協働で勉強会を実施したことにより、地域住民の防除に対する意識が改善され、地域によっては防除対策が進展したことも被害抑制の要因のひとつとして挙げられる。 加害個体の変化や、狩猟者の高齢化に対応すべく、今後もICT機器等の導入や、農業者の防除に対する意識改善に期待する。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%であり、対策の効果が見られる。 今後も対策を継続し、被害の軽減に努めることを期待する。	これまでの被害対策の効果が確実に現われている。今後も、地域ぐるみの取り組みを充実させ、被害がさらに減少することを期待する。
藤枝市鳥獣被害防止対策協議会	藤枝市	令和元～3年度	イノシシ、サル、ニホンジカ、アナグマ、ハクビシン、カラス、アライグマ	推進事業 （生息環境管理管理）	緩衝帯整備 R1 1,924㎡ R2 1,373㎡ R3 909㎡	藤枝市鳥獣被害防止対策協議会			農作物に被害を与える有害鳥獣の棲み処となる草木の刈り払いにより、農地に有害鳥獣が出にくい環境にすることができ、農作物被害が減少した。	12,120	7,563	331	1,090	669	416	ハード面とソフト面の両方を取り組むことにより、様々な角度から鳥獣被害を防止することができていると感じる。捕獲頭数の増加、被害面積・被害金額の減少も年々成果が上がっており、事業の成果として評価できる。 今後も継続してこれらの事業に取り組んでいき、藤枝市の鳥獣被害が減少するように努めていく。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%であり、対策の効果が見られる。 サルについては、捕獲を行うことで群れが分裂し被害が拡大することがあるため、群れの生態を考慮しつつ捕獲に取り組むよう注意して欲しい。また、大規模な防護柵を複数人で管理する場合、見回りがおろそかになることがあるため、引き続き適切な維持・管理を期待する。	これまでの被害対策の効果が確実に現われている。今後も、ハード、ソフト両面において、地域ぐるみの取り組みを充実させ、被害がさらに減少することを期待する。
				推進事業 （被害防除）	(R1) 被害地区パトロール車両リース 地域研修会開催 県外研修受講 箱わな(大)18基購入 (R2) 被害地区パトロール車両リース (R3) 被害地区パトロール車両リース				地域研修会を通じて、地域住民の専門的知識が身についた。これにより、各農地での正しい対策をとれるようになり、農作物被害の軽減につながる。 県外研修へ参加したことにより、実施隊員の専門的な鳥獣害対策の知識も身につき、農家の方へより効果的なアドバイスを送れるようになった。 実施隊員用の捕獲わなを購入したことにより、実施隊員の個人負担は無く、箱わなの設置個所も増やすことができた。精力的な捕獲活動ができるようになり、捕獲頭数の増加につながった、									

				推進事業 （有害捕獲）	（R3） サル捕獲用移動式囲いわな2基購入				令和3年度は箱わなや銃器で18頭の捕獲実績だったが、サル用の囲いわなを設置したことにより、令和4年度に入り7月21日時点で2基合わせて55頭の捕獲に成功している。									
				鳥獣被害防止緊急捕獲活動支援事業	（R1） イノシシ(成獣)530頭、イノシシ(幼獣)275頭、アナグマ12頭、ハクビシン23頭、ニホンジカ(成獣)20頭、カラス27羽、サル(成獣)7頭、サル(幼獣)1頭 （R2） イノシシ(成獣)181頭、イノシシ(幼獣)48頭、アナグマ9頭、ハクビシン38頭、ニホンジカ(成獣)32頭、カラス28羽、サル(成獣)8頭 （R3） イノシシ(成獣)210頭、イノシシ(幼獣)44頭、アナグマ23頭、ハクビシン67頭、ニホンジカ(成獣)52頭、カラス24羽、サル(成獣)20頭、サル(幼獣)3頭、アライグマ1頭				豚熱の影響でイノシシの捕獲数は減少したが、その他の獣種については捕獲者の精力的な活動により、年々捕獲実績が伸びている。これにより、農作物に被害を与える有害鳥獣を適正な個体数に近づけることができた。被害金額や被害面積も目標値に向け着実に減少している。									
掛川市鳥獣被害防止対策協議会	掛川市	令和元年度～3年度	イノシシ、ニホンジカ、アナグマ、ハクビシン、カラス	推進事業 （有害捕獲、ICT等新技術の活用）	・箱わな(大)14基 ・獣識別捕獲システムアニマルセンサー2 14基 ・自動撮影カメラハイクカム10基 ・鳥類追い払い機器6台 ・カラス用捕獲檻2基				捕獲機材の充実により、捕獲が促進された。現在も被害防止目的捕獲許可申請に応じて設置を継続している。	9001	9001	100	1260	1260	100	有害鳥獣捕獲については、猟友会の協力によりイノシシをはじめ捕獲の強化を図ることで、被害金額及び面積の目標値は達成できたと判断する。また、平成30年に設置した掛川市鳥獣被害対策実施隊についても、令和元年度から猟友会からの選抜者8名を増員し、新規狩猟免許取得者を対象に研修会を開催し、捕獲技術の向上を図る他、緊急時の捕獲出動等協力をいただくことができた。電気柵や防護柵の設置に伴う市補助金活用者の増加も、農作物被害軽減の成果の要因となったと考える。 　また、市内の一部では、「実施隊」「猟友会」「地域」の連携による地域ぐるみでの被害防止対策を推進することが出来たため、引き続き、地域への被害対策に関する意識啓発に努めていきた	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%であり、対策の効果が見られる。狩猟免許取得者がスムーズに捕獲に従事出来るように、今後も研修会等の支援を続けて欲しい。 （静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター上席 研究員　水井陽介）	市の鳥獣被害に係る分析によれば、市内全域でのイノシシ被害の増加、北部でのニホンジカによる被害増加、南部での中型獣類による被害報告等が見られ、幅広く対策の必要性があると思料される。 市被害防止計画に係る今後の取組方針では、捕獲従事者対策、侵入防止柵の助成、研修・啓発活動等多様な取組を挙げており、総合的な対策の効果が期待される。
				緊急捕獲活動支援事業	（R1） イノシシ 　　成獣429頭 　　幼獣442頭 ニホンジカ 　　成獣　7頭 　　幼獣　3頭 アナグマ　24頭 ハクビシン 58頭 カラス　　22羽				被害の減少									
				緊急捕獲活動支援事業	（R2） イノシシ 　　成獣236頭 　　幼獣226頭 ニホンジカ 　　成獣　7頭 　　幼獣　1頭 アナグマ　30頭 ハクビシン 58頭 カラス　　0羽				被害の減少									
				緊急捕獲活動支援事業	（R3） イノシシ 　　成獣105頭 　　幼獣355頭 ニホンジカ 　　成獣 26頭 　　幼獣　2頭 アナグマ　19頭 ハクビシン 45頭 カラス　　0羽				被害の減少									

森町有害鳥獣対	森町	元～3	イノシシ ニホンジカ	推進事業	（R元年度） 囲いわな　1基 （R2年度） 囲いわな　1基 （R3年度） GPSマーカー ドッグナビ 狩猟者端末6台 ドッグナビ 猟犬端末2台				同時に複数頭捕獲できる囲いわなを新たに導入し、捕獲機材の拡充と捕獲効率の向上を図った。箱わなやくくりわなと違うため、わなを警戒する個体を増やさずに済む効果があった。 また、銃猟においても効率的な捕獲を行えるようドッグナビを新たに導入した。これにより、猟犬の動きを捕捉できるようになり、鳥獣の動きを予測も行えることとなった。	3,179	3,151	107	172	204	-60	森町では、森町有害鳥獣対策協議会を主体とし、被害対策を実施している。 被害の状況としては、イノシシについては、被害金額、被害面積ともに目標達成することができた。要因としては、推進事業により、捕獲機材の拡充、緊急捕獲活動支援事業により、捕獲活動の強化によることが大きく、また、電気柵等の防護柵による被害防除対策や、被害防止研修会の開催により、自衛意識の啓発を行ったことも被害軽減に繋がったと思う。 一方、捕獲頭数の減少から豚熱の感染拡大による生息個体数の減少も推測されるが、被害は発生している状況のため、捕獲活動、被害防除対策、自衛意識の啓発等、継続的に行っていく必要がある。 ニホンジカについては、結果として、被害が増加することとなった。要因としては、生息個体数の増加、生息範囲の拡大が推測される。また、イノシシによる被害防除を目的に対策を行っていた田畑に侵入したという報告も受けており、加害獣種に応じた被害防除対策の見直しや拡充等を図っていく必要があると思われる。 捕獲頭数も、令和3年度の捕獲数が急増しており、被害防除対策の見直しと共に、捕獲活動の強化により、個体数の減少に取	イノシシの被害は減少したものの、ニホンジカの被害が拡大している。新たにニホンジカの被害が確認された地域の住民に対して、イノシシと合わせてニホンジカに対する意識啓発や対策の指導を進めてほしい。	町による農作物被害の分析では、昨年度までと比較して、ニホンジカによる被害の増加とイノシシによる被害の減少が挙げられている。 町被害防止計画に係る今後の取組方針として、ニホンジカの捕獲増を目指すと共に、他の対象鳥獣に対しても捕獲数の維持ほか、継続した取組が掲げられており、被害軽減目標達成を期待するところである。
				緊急捕獲活動支援事業	（R元年度） イノシシ 成獣112頭 幼獣150頭 ニホンジカ 成獣24頭 幼獣 4頭 （R2年度） イノシシ 成獣74頭 幼獣65頭 ニホンジカ 成獣21頭 幼獣 1頭 （R3年度） イノシシ 成獣26頭 幼獣50頭 ニホンジカ 成獣151頭 幼獣 6頭				緊急捕獲を実施することで、被害の減少、個体数の減少に努めた。 また、推進事業で導入した捕獲機材を活用することで、捕獲活動の強化を図ることができた。									
浜松市	浜松市	令和元～3年度	イノシシ サル ニホンジカ カモシカ ハクビシン タヌキ アライグマ アナグマ ノウサギ カラス	緊急捕獲活動支援事業	（R1） イノシシ1,210頭 サル155頭 ニホンジカ620頭 ハクビシン177頭 タヌキ118頭 アライグマ2頭 アナグマ61頭 ノウサギ6頭 カラス102頭				イノシシ：農作物被害額は減少傾向。被害地域の生息頭数増加に歯止めがかかっていると推測される。 サル：従来被害が発生していた引佐地域、天竜・浜北の一部では被害が減少しているが中山間部を中心に農作物被害が発生している。 ニホンジカ：農作物被害額は減少傾向であるが、生息地域の拡大・個体数の増加が推測されており、被害面積は拡大している。林業が盛んな地域では依然として被害が大きい。 ハクビシン・タヌキ・アライグマ・アナグマ：被害額はほぼ横ばい。捕獲により被害拡大に歯止めがかかっていると推測される。アライグマの生息域の拡大・個体数の増加が推測される。 ノウサギ：野菜・果樹幼木への被害が発生していることが推測される。 カラス：農作物全般に被害がある。どのような対策が効果的なのか検証が必要。	31,572千円	30,557千円	114%	9,650a	7,198a	187%	防護柵設置が進んだことや、捕獲圧を維持していることなどから被害は減少傾向にあり、目標を達成することができた。イノシシの減少は豚熱の影響もあると思われ、今後被害の増加も考えられる。 シカの被害面積が拡大していること、市民相談からも、従来は被害のなかった地域に生息範囲が拡大していることが確認できる。 （カモシカも同様） これまで被害がなかった集落においては、シカ対策はほとんどされていない。また猟友会員の減少も相まって捕獲圧を高めていくことにも限界がある。 アライグマ等含め、今まで被害の無かった地域に生息範囲が拡大していることから、防護対策について、改めて啓発を進めていく必要がある。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%であり、対策の効果が見られる。 県内の他の地域でもニホンジカやアライグマの生息地域の拡大が報告されている。 被害が発生している地域では意識啓発や対策の指導を進めてほしい。 令和４年８月23日 静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 上席研究員　水井陽介	被害金額・被害面積ともに目標を達成しており、対策の効果が見られた。 イノシシについては、被害が減少しているものの、被害全体に占める割合が依然として最も多い獣種である。今後も対策を継続して行っていただきたい。 ニホンジカによる被害については、被害地を特定し、防護柵で排除することに加えて捕獲する等、効果的な対策を検討・実施してほしい。 アライグマ等、生息範囲が拡大している獣種については、該当地域での意識啓発・指導を行っていただきたい。
					（R2） イノシシ511頭 サル105頭 ニホンジカ718頭 ハクビシン197頭 タヌキ95頭 アライグマ7頭 アナグマ52頭 ノウサギ0頭 カラス130頭													
					（R3） イノシシ590頭 サル78頭 ニホンジカ892頭 ハクビシン187頭 タヌキ93頭 アライグマ13頭 アナグマ57頭 ノウサギ1頭 カラス191頭													
				推進事業	（R1） 【協議会】 ・鳥獣被害対策研修会（2回） 【実施隊】 ・放任果樹伐採（引佐地区10a） ・わな通知システム実証 ・センサーカメラ1台導				・研修会の開催により被害実態と対策に対する理解が促進された。 ・放任果樹伐採・緩衝帯整備により加害鳥獣の出没しにくい環境となった。 ・電気柵監視システムにより維持管理にかかる負担減を図った。 ・センサーを利用した自動捕獲システムにより、捕獲活動の効率化の実証を行った。 ・被害集落における猟友会との協力体制が構築された。 ・加害鳥獣の特定や進入経路の確認による対策の早期実施が実現された。 ・実施隊員の研修参加により鳥獣被害対策の知見を高めることができた。							防護柵設置が進んだことや、捕獲圧を維持していることなどから被害は減少傾向にあり、目標を達成することができた。イノシシの減少は豚熱の影響もあると思われ、今後被害の増加も考えられる。 シカの被害面積が拡大していること、市民相談からも、従来は被害のなかった地域に生息範囲が拡大していることが確認できる。 （カモシカも同様） これまで被害がなかった集落においては、シカ対策はほとんどされていない。また猟友会員の減少も相まって捕獲圧を高めていくことにも限界がある。	被害金額・面積ともに目標の達成率は100%であり、対策の効果が見られる。 県内の他の地域でもニホンジカやアライグマの生息地域の拡大が報告されている。 被害が発生している地域では意識啓発や対策の指導を進めてほしい。 令和４年８月23日 静岡県農林技術研究所 森林・林業研究センター 上席研究員　水井陽介	被害金額・被害面積ともに目標を達成しており、対策の効果が見られた。 イノシシについては、被害が減少しているものの、被害全体に占める割合が依然として最も多い獣種である。今後も対策を継続して行っていただきたい。 ニホンジカによる被害については、被害地を特定し、防護柵で排除することに加えて捕獲する等、効果的な対策を検討・実施してほしい。 アライグマ等、生息範囲
					（R2） 【協議会】 ・鳥獣被害対策研修会（2回） ・緩衝帯整備（引佐地区） ・電気柵監視システム設置													
					（R3） 【協議会】 ・電気柵設置演習 【実施隊】 ・ICTシカ自動捕獲システム実証													

浜松地域鳥獣被害対策協議会	浜松市	令和元～3年度	イノシシ サル ニホンジカ カモシカ ハクビシン タヌキ アライグマ アナグマ ノウサギ カラス	整備事業	（R1） 防護柵（ワイヤーメッシュ柵及び電気柵）の設置 北区三ヶ日町、引佐町 設置延長34,638m、設置面積94.3ha	三ヶ日町 ・R1三ヶ日町只木工区のみかんを鳥獣被害から守る会 ・R1三ヶ日町福長工区のみかんを鳥獣被害から守る会	R1.10.2～R2.3.9		・防護柵整備地においては農作物被害が激減した。 ・柵整備により、それまで摂食できていた圃場へ侵入ができなくなり、整備ほ場周辺のわなの誘引効果が高まった。	31,572千円	30,557千円	114%	9,650a	7,198a	187%	アライグマ等含め、今まで被害の無かった地域に生息範囲が拡大していることから、防護対策について、改めて啓発を進めていく必要がある。		が拡大している獣種については、該当地域での意識啓発・指導を行っていただきたい。
					（R2） 防護柵（ワイヤーメッシュ柵及び電気柵）の設置 北区三ヶ日町 設置延長35,645m、設置面積85.4ha	三ヶ日町 ・R2三ヶ日町宇志1工区のみかんを鳥獣被害から守る会 ・R2三ヶ日町只木2工区のみかんを鳥獣被害から守る会 ・R2三ヶ日町平山1工区のみか	R2.9.24～R3.3.6											
					（R3） 防護柵（ワイヤーメッシュ柵及び電気柵）の設置 北区都田町、三ヶ日町、引佐町 設置延長14,986m、設置面積41.8ha	都田町 ・R3 都田町都田1工区のみかんを鳥獣被害から守る会 三ヶ日町 ・R3 三ヶ日町宇志1工区のみかんを鳥獣被害から守る会	R3.10.3～R4.3.10											
湖西市	湖西市	令和元年度から令和3年度	イノシシ、ハクビシン、カラス	緊急捕獲活動支援事業	（R1） イノシシ119頭 ハクビシン14頭 カラス176羽 （R2） イノシシ148頭 ハクビシン18頭 カラス190羽 （R3） イノシシ10頭 ハクビシン5頭 カラス188羽				・直接景況を及ぼす固体を駆除することにより、農作物被害の減少が図られた。	2,799千円	3,493千円	42%	594a	740a	42%	・豚熱被害防止対策として捕獲圧を強化したことにより一時的に捕獲個体が減少したが、イノシシの出没範囲が広がっており、それに伴う被害の増加が懸念される。 ・地元製造業が開発した忌避装置の実証を行い、イノシシへの効果を確認し、販売等につなげることができたが、今後ﾊｸﾋﾞｼﾝ等小動物への効果検証を続け、電機柵等で防除困難な小動物の被害防止に繋げたい。	・野生動物を捕獲することも重要であるが、集落住民が一体となって野生動物の被害対策に取り組むことも重要である。 今後については、捕獲や防護柵の購入に対する補助だけでなく、改善計画に記載されているとおり、住民の意識啓発が図られることを期待する。なお、野生動物は音や匂いに慣れると忌避効果は弱まるため、忌避装置を利用している生産者に対して適切な使用方法の指導をお願いしたい。	イノシシについては、目標達成に向けて進捗が見られる。引続き捕獲強化と侵入防護柵設置支援を行っていただきたい。 ハクビシン及びカラスについては、目標達成に向け、圃場診断や講習会等の実施を通じて、被害に対する意識啓発を図っていただき、効果的な防除方法について指導を行っていただきたい。
				新技術実証・普及活動 〇ICTわなの現地適応性実証	〇LPWAを活用し低コストで広範囲な通信システムのICTワナを設置した。				〇有効的なわなの設置や管理方法等を試行しながら、ICT囲いわなでイノシシ22頭、シカ14頭を捕獲し、システムの有効性について確認した。							〇新技術の実証普及を通じ、市町が行う取組との連携を深めることができた。 今後も引き続き実施し、普及に向けた課題やノウハウを蓄積する。	ICT技術等の新技術は今後の狩猟者の高齢化や減少に伴い、必須の技術となる。今後のICT技術についても既存技術の改善が進むと考えられ、新たな技術を実証し普及されたい。 鳥獣被害対策において知識や技術を狩猟者や市町村農協職員等が身につける必要がある。知識から実習による総合的な対策を身につけ対策に当たって欲しい。 SDGsの観点からも捕獲個体の利活用は不可欠であり一般消費者へジビエが普及しつつある中、ジビエの安全安心の信頼を高める必要がある。認証制度の取得等により安全への意識の向上やブランド化のため今後も衛生的な取組を推進して欲しい。 (国立大学法人静岡大学 理事・副学長　森田明雄)	

静岡県	静岡県	令和3年度	－	人材育成活動 〇鳥獣被害対策の人材育成	〇地域で鳥獣被害対策を指導できる人材を育成するため市町やJAの職員の初任者等を対象とした鳥獣被害防止総合対策アドバイザー研修を開催した。（浜松市、延べ27人参加） 〇農業者、市町やJAの職員等、各地域の現場で活躍が期待される人材を育成するための研修会を、県内7地域（賀茂、東部、富士、中部、志太榛原、西部、天竜）で開催し、被害防止対策の知識や技術の習得、防護柵の設置実習、捕獲技術の習得等を行った。（延べ人106人参加）	－	－	－	〇基礎的な内容から発展的な内容まで、座学や実習を織り交ぜた研修を各地で開催した。 〇研修受講者がそれぞれの地域で被害対策の指導的役割を果たすことが期待される。	－	－	－	－	－	－	〇多くの地域で捕獲従事者の減少・高齢化などが課題となっているなか、被害対策のための人材育成を引き続き行う。 〇今後も技術的助言や情報共有などを通じて、人づくりや基盤づくり、広域的な連携などを中心に、取組を進めていく。		
				ジビエ利用の拡大 〇安全なジビエの提供と消費者のジビエに対する安心の確保を図るのジビエ衛生研修会	〇ジビエの利活用にあたっては、処理加工施設等の整備を進めるだけでなく、衛生的な処理加工技術の周知が不可欠であり、大手飲食店等の需要に対応するためには国産ジビエ認証の取得など高度な衛生管理技術が求められている。また、ジビエの消費は一部の飲食店や家庭、地域イベントなど限定的で、ジビエの安全安心の浸透を図ることで一般消費が拡大すると考える。そこで、県内ジビエ振興を図り、国産ジビエ認証取得のために必要な衛生的な管理技術の研修会を開催する。				〇止め刺しから解体までの国産ジビエ認証の衛生管理のポイントについての講義やイノシシ、シカの部位肉質に合わせた調理方法についての講義を狩猟者から食肉処理加工施設職員、申請に関わる市町職員等に講義を行ない、衛生的な処理加工技術等の知識の習得を実施した。							〇捕獲個体の利活用としてジビエの更なる普及が今後も課題となる中、今後も衛生的な管理方法や認証制度の啓発を引き続き実施してく。		

注1：被害金額及び被害面積の目標欄については対象鳥獣及び目標値を記し、これに合わせて他の欄も記載する。
2：都道府県が事業実施主体となる鳥獣被害防止都道府県活動支援事業を実施した場合、その事業内容等も記載すること。
3：事業効果は記載例を参考とし、獣種等ごとに事業実施前と事業実施後の定量的な比較ができるよう時間軸を明確に記載の上、その効果を詳細に記載すること。整備事業を行った場合、捕獲効率の向上にどのように寄与したかも必ず記載すること。
4：「事業実施主体の評価」の欄には、その効果に対する考察や経営状況も詳細に記載すること。
5：鳥獣被害防止施設の整備を行った場合、侵入防止柵設置後のほ場ごとの鳥獣被害の状況、侵入防止柵の設置及び維持管理の状況について、地区名、侵入防止柵の種類・設置距離、事業費、国費、被害金額、被害面積、被害量、被害が生じた場合の要因と対応策、設置に係る指導内容、維持管理方法、維持管理状況、都道府県における点検・指導状況等を様式に具体的に記載し、添付すること。

5　都道府県による総合的評価

目標達成した市町、未達成の市町に関わらず加害獣種の変化などによる被害拡大が見受けられた。常に環境の変化に対応出来るように積極的な情報の発信や対策を出来る体制を整備とともに従来の対策を引き続き推進していく。